

製品名: ETBR ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10644**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	EDNRB
別名	Endothelin B receptor (ET-B;ET-BR;Endothelin receptor non-selective type)
遺伝子 ID	1910.0
SwissProt ID	P24530
免疫原	ETBR 由来の合成ペプチド (AA 範囲: 31-80)

背景

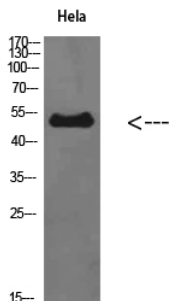
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化する G タンパク質共役受容体です。そのリガンドであるエンドセリンは、3つの強力な血管作動性ペプチド (ET1、ET2、ET3) の

ファミリーで構成されています。研究によると、多遺伝子疾患であるヒルシュブルグ病 2 型は、エンドセリン受容体 B 型遺伝子の変異に起因することが示唆されています。選択的スプライシングと代替プロモーターの使用により、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2016 年 10 月]、疾患: EDNRB の欠陥は、ワールデンブルグ症候群 IV 型 (WS4) [MIM:277580] (ワールデンブルグ・シャー症候群としても知られています) の原因です。WS4 は、ワールデンブルグ病の特徴(色素脱失および難聴)と腸管遠位部の腸管神経節の欠損(ヒルシュブルグ病)を併発することを特徴とする。疾患:EDNRB の欠陥は、ABCD 症候群 (ABCDs) [MIM:600501] の原因である。ABCD 症候群は、白皮症、側頭後頭領域の黒色毛、両側難聴、大腸の無神経節症、小腸の神経細胞および神経線維の完全な欠損を特徴とする常染色体劣性症候群である。疾患:EDNRB の欠陥は、ヒルシュブルグ病 2 型 (HSCR2) [MIM:600155] の原因である。無神経節性巨大結腸症 (MGC) としても知られる。これは、腸のさまざまな長さに沿って腸管神経節が欠損する先天性疾患である。先天性腸閉塞の最も一般的な原因です。初期症状は、嘔吐、腹部膨満、排便障害を特徴とする新生児期の完全な急性腸閉塞から、年長児期の慢性便秘まで様々です。機能: エンドセリン 1、2、3 の非特異的受容体。ホスファチジルイノシトール-カルシウムセカンドメッセンジャーシステムを活性化する G タンパク質と結合することで作用を媒介します。PTM: Cys-403 と Cys-405 の両方を欠損する欠失変異体において、Cys-402 のパルミトイル化が確認されました。類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属します。組織特異性: 胎盤幹絨毛血管で発現しますが、培養胎盤絨毛平滑筋細胞では発現しません。

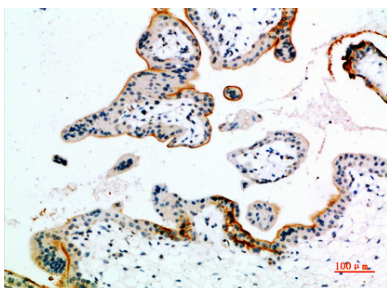
研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;メラニン生成;

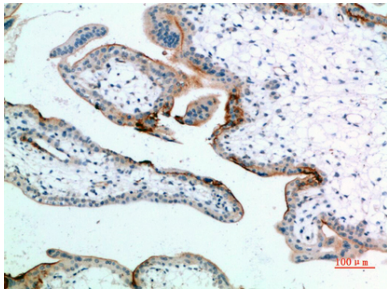
画像データ



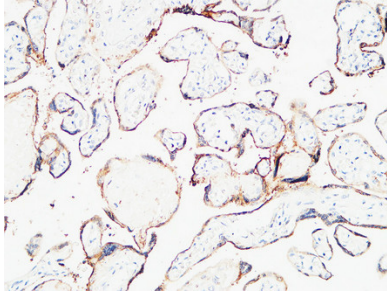
ETBR ポリクローナル抗体 (1:500 希釈) を用いた HeLa 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



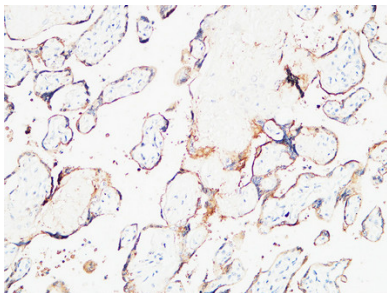
パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



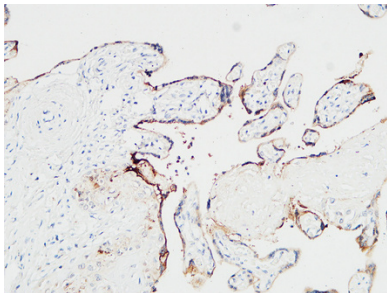
パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された



パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 (4°、一晚) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。